



遠宮で結ぶ人の輪 心の輪
第六十二回神宮式年遷宮

大宮

THE ŌMIYA HACHIMAN

平成 21 年 (2009)

奉祝 天皇陛下御即位二十年
平成 21 年 大宮八幡祭り(秋の大祭)号【第 85 号】
<http://www.ohmiya-hachimangu.or.jp/>

主な目次

まつりは心の廻り……………	2 頁
大宮八幡祭り(秋の大祭)案内……………	3 頁
杜の話題……………	5 頁
大宮の杜 秋も深まり……………	9 頁
初宮詣芳名……………	10 頁
どんぐり通信……………	10 頁
秋の大祭社頭風景……………	12 頁



大宮八幡祭り(秋の大祭) 神輿八基の合同宮入【九月二十日】

天皇陛下には、この秋 11 月 12 日、御即位のご大
 礼を挙げられてから二十年目の慶節を迎えられま
 す。この日御即位二十年をお祝いする政府主催の
 奉祝式典が予定されております。当宮でも、今年
 の大宮八幡祭り（秋の大祭）は昨年に引き続き、
 ご慶事を奉祝して斎行されます。

特に御神輿八基による合同宮入りは圧巻で、第
 24 回を迎え、夕闇迫る午後 6 時大宮一丁目の神幸
 所をご発輿になり、一〇〇軒の露天商が左右に並
 ぶ表参道を明かりを灯した御神輿が渡御される姿
 といひ、神門内に練り込まれと云われて繰り広げら
 れる御神輿振りは城西随一と云われています。

大宮八幡の聖なる杜の空間はエネルギーで
 熱気に溢れ、各睦会揃いの法被姿で昇々人々も、陪
 観の人々も凡そ五、〇〇〇名が興奮の増嶋（るつぽ）
 と化し、神々と俱に感応頂き、神々と一体であるこ
 とを実感して頂けるとともに、えも言われぬ大いなる
 波動が伝わり、「心の甦り」を感じて頂くことの
 出来る感動のひとときでもあります。またお祭りには、
 お互いの心が協調して町全体が精神的にも高め
 られ、地域の活性化に繋がる要素もあります。

その地域内でのコミュニケーションも良くなり、
 和が保たれ、その輪を広げていくことも出来ると思
 います。亦まつりには、この様な動的な祭りとなつて
 なまつりがあります。専らご神威を畏み、神々に近
 づき、交流を深める祭り。当宮でも斎行されている
 例祭や氏子奉幣祭に当たる祭典であります。

祭りの原点は、物忌みを期して神々の出現を期待し
 只管「待つ」ことが祭りのルーツと云われています。
 物忌みとは、神々に奉仕をする人々が世俗と断絶し
 て斎館に籠もり、別火（神々への供物に使う浄火）を
 用いて専ら忌み慎みの生活を送ることにより、神々に
 近づいて行くことと云う
 もので、謂ゆる参籠の生
 活であります。



この様な物忌みを厳
 格に行っていくと当然
 のこととして、その人自
 体に神々が寄り憑く依
 代（よりしろ）即ち神人

となつて、その神人から発せられる言葉（ことだ
 ま）が神々からの託宣と云うことになりませう。
 その言葉（ことだま）を待ち、その真意を確
 かめ（審神（さには）＝神占いにより判定する）
 その託宣に感謝し、神々と共に食事をすること
 が古代の祭りであり神事でありました。

そうして、古代は祭政一致であり、国や共同
 体は祭りによつてその将来が決められていまし
 た。即ち、祭りによつて一年の農事や政事が決
 められると云う神祭りは、共同体（氏子地域）
 の活力を再生し更新させてきたのです。祭りも
 政治もマツリゴトであつた訳です。

この様に神社には、祭りを祭祀儀礼としてその
 心とかがたちが伝承され、今日に至つております。

まつりは心の甦り

宮司 鎌日紀彦

又日本の祭りには、祈りと感謝が一對になつ
 ております。春に祈り、秋に感謝する祭り、つ
 まり春の祈年祭（としごいのまつり）や春の大
 祭、秋には秋の大祭や新嘗祭（にひなめさい）
 が行われます。農耕社会でありましたから、農
 耕儀礼と重なり、暦の無い時代は米作りが一年
 の暦の役割も果たし、季節の折々に米作りに係
 わる年中行事（お祭り）を繰り返しながら、お米
 を始め五穀の豊穰を祈つてきました。

平安時代の節会や江戸時代の節句の行事（今
 日まで続いています）は全て神々にお供え物（節
 供でもあります）をして、神々と一緒に供え物
 を食べると云う「神人共食」をして来ました。
 これは同じものを食べることによつて神々と一
 体になる信仰で、神々を饗応することにより
 神々のエネルギーを頂くことにも繋がり、謂わ
 ば、まつりは心と生命力の更新を願う祭祀儀礼
 でもあるのです。今、神社で行われている直会
 （なほらい）にその意味が継承されています。
 宮中では現在でも天皇陛下が御自ら新嘗祭を

ご親祭になり、神々にお供えをされた後、それを
 召し上げる所作をなさつて居るのです。かつて私共
 国民はこの神事が終わらないと、新穀を食べなかつ
 たのですが、今は早期栽培により早い時期に実り
 があり、神々より先に戴く様になりました。本来
 は、初穂を神々にお供えするのが礼儀なのです。

又、日本の祭りには祈りと感謝の他に、祭りの
 三要素として神々を迎えて、祀つて（饗応して、
 送ると云う三段階があります。これはお盆の行事
 をみてみると一番解りやすいと思ひます。お盆は
 仏教独自の行事のように思われておりますが、実は
 仏魂祭（みたままつり）で、御霊（おみたま）
 をお祀りする仏教伝来以前からの日本古来の伝
 統の祭祀なのです。

13 日に迎え火を焚いて御霊を迎え、14・15 日
 とお祀りをして饗応をし祖先との交わりを深め
 たり、盆踊りなどをして共に楽しく過ごし、そ
 うして 16 日に送り火を焚いてお帰り頂く。

お盆は単なる先祖供養でなく、私共の一番身近な
 ご先祖から新しいエネルギー・生命力を戴き、甦り
 再生すると云う行事でもある訳です。ご家庭には、
 仏壇も神棚も違和感なく祀られていると思ひます。

敬神崇祖と云う言葉があるとおり、神々を敬い
 祖先を崇めると云う日本人の永い伝統の信仰のあ
 る日常生活を再認識して頂きたいと思ひます。

そうして家を齊え治めることは、家庭の祭祀を
 きちんと行つてゆくことであると思ひます。神
 前や仏前に毎朝心から手を合わせ、神々のお恵み
 やご祖先のご恩に感謝し、生かされていることを実
 感して、その御心に沿うよう努力して行くことが大
 切であると思ひます。そうすると自ら家の中に秩序
 も出来て家庭環境も整い、精神的に安住できる楽
 しい円満な家庭生活が送れるものと思ひます。

大宮八幡祭りを迎えるに当たり、祭りの原点を
 振り返らせて頂きましたが、心の甦りと云うまつ
 りの精神が氏子崇敬者各位のご家庭の祀りにも
 普く反映され、広大無辺な八幡大菩薩のご神威が
 輝き亘り、各ご家庭がご平安にご繁栄されますこ
 とをお祈り申し上げます。（二十一、八二記）

奉祝 天皇陛下御即位二十年

大宮八幡祭り(秋の大祭)

例祭・氏子奉幣祭 第二十四回 神集合同宮入り



猛暑も和らぎ、ほのかに心地好い秋風を感じる長月、当宮の年間最大行事である大宮八幡祭り(秋の大祭)を迎えます。今年も天皇陛下御即位二〇年を奉祝して9月15日午前10時、神社本庁より献幣使参向のもと例祭が斎行され、五穀豊饒に感謝し皇室国家の安泰と世界平和、更に氏子崇敬者の平安と繁栄が祈念されます。そして9月18日午前には氏子各町睦会神輿の神霊入れ神事が、次いで境内、若宮八幡神社・白幡宮の例祭が斎行されます。

翌19日の夕刻には宵宮祭が、20日午前10時よりは氏子奉幣祭が斎行され、大宮・方南・和田・松ノ木の四地区の氏子の皆様より寄せられる真心こもるご浄財が氏子幣として大前に献じられ、奉幣使(祭礼委員長)により氏子祈願詞が奏上されます。午後6時より大祭のクライマックス、第24回神集合同宮入りが行われ、氏子四地区から神輿8基が神門内大前に練り込まれ、神前での神輿振りは城西随一と云われるほど圧巻であり、熱気と興奮のつぼと化します。

このほか20日午後の弓の神事小笠原流草鹿式、19日の園児民謡踊り、また杉並太鼓、高井戸囃子など神賑行事が期間中賑々しく奉納され、また清涼殿では平安の宮中行事「菊被綿」飾りが再現されます。



若宮八幡神社・白幡宮例祭

大宮八幡祭り期間中の9月18日午前、境内社の若宮八幡神社並びに白幡宮の例祭が斎行されます。若宮八幡神社は八幡天神(応神天皇)の御子神の仁徳天皇がお祀りされていますが、若宮は別宮でもあり、八幡大神の荒御魂をお祀りしているとも云われています。また白幡宮は当宮を創建された

源頼義公とその子の八幡太郎源義家公のご神霊がおまつりされており、若宮八幡・白幡宮はとりわけ御本社とゆかりの深い御祭神をおまつりするお社です。



大宮八幡祭り(秋の大祭) 祭事

菊被綿神事 月宮夕霧

例祭(献幣使参向) 9月15日

神輿神霊入れ神事 9月18日

若宮八幡神社 9月18日

白幡宮例祭 9月18日

各神幸所清祓・宮司巡拝 9月19日

宵宮祭 9月19日

氏子奉幣祭 9月20日

第二十四回神集合同宮入り 9月20日

神輿神霊返し神事 9月21日

後朝祭(直会ノ儀) 9月21日

十五夜の神遊び(仲秋祭) 10月3日

神賑行事

第11回菊被綿飾り 9月9日〜23日

奉納書画行燈 9月9日〜23日

献燈提灯 9月9日〜23日

弓道奉納射会 9月6日

大宮幼稚園園児民謡踊り 9月19日

方南エイサー踊り 9月19日

杉並太鼓 9月19日

高井戸囃子 9月20日

町内神輿渡御・宮入り(昼間) 9月20日

スカウトバザー 9月20日

スカウト神輿宮入り 9月20日

野点茶会 9月20日

舞楽(俊成雅楽会) 9月20日

小笠原流草鹿式 9月20日

盆栽展示会 9月18日〜20日

第31回小笠原流献華展 9月18日〜21日

露店「二二〇店」 9月19日・20日

第九回十五夜の神遊び

秋の大祭の熱気も収まり、秋色が日毎に深まってゆく頃、この大宮の鎮守の杜で、今年も仲秋の名月の10月3日(土)に第9回「十五夜の神遊び」が斎行されます。



夕刻、献灯神事として神前に並べられた一〇〇基を越す竹燈に、ご参列の皆さんに火を灯して頂き、ご本殿で祭典が執り行われます。その後、夜の帳も降りて竹燈に揺らぐ火灯りの中、神

第十回菊被綿飾り

平安時代に行われていた、重陽の節句の宮中行事「菊被綿」飾りが本年も天皇陛下御即位二十年を奉祝して、大宮八幡祭りに併せ9月9日より23日まで再現・公開されます。

8日の夕刻神職・巫女により菊被綿神事を斎行。拝殿向拝下に設えられた菊鉢(各三色の九鉢)に、色鮮やかに染められた三色の真綿が被せられ、翌9日朝露を含んだ

楽殿を舞台に、雅楽と神楽舞を奉奏。

次いで午後7時より「月の音舞台」として、昨年に続き二胡奏者・シンガーソングライター



の芳晴氏とピアノ奏者のシモシュ氏による奉納演奏があり、月明かりにすだく鳴虫の音と共に、自然の豊かな神苑でのご陪観は雅と幽玄にひたる至福のひとときです。(入場無料)



真綿が御日供祭に併せて、ご神前に献納されます。

「月見の宴」のご案内

清涼殿では、十五夜の神遊びに因んだ特選料理「月見御膳」をご賞味頂く「月見の宴」を月の音舞台奉奏後開催します。

名月を愛で、古式ゆかしい雅楽の調べや二胡・ピアノの演奏をお楽しみ頂いた後、十五夜の雅と幽玄の余韻の中、「月見の宴」をお楽しみ頂きますようご案内申し上げます。



【月見御膳】

◎御神酒付
お一人様 4,800円(税込)
『月の音舞台陪観指定席』含む
限定100名様



定員に限り次第切りとなりますので、お早めにお申し込み下さい。
※雨天でも「十五夜の神遊び」月の音舞台は行われます。
◎お土産用大宮八幡錦栗「竹ひめ」(当日のみ限販売)お申し込み・お問い合わせは

大宮八幡宮 清涼殿まで

〇三(三三三二)七五二五

戌の日詣りは

子育八幡さまの当宮で安産祈願のご祈禱を!



ご祈願の方には安産腹帯(石田帯)を授けしております
子授け祈願、初宮詣も随時お受けしております

戌の日早見表

(平成21年9月~平成22年1月)

9月	2日(水)	14日(月)	26日(土)
10月	8日(木)	20日(火)	
11月	1日(日)	13日(金)	25日(水)
12月	7日(月)	19日(土)	31日(木)
1月	12日(火)	24日(日)	

■は大安の日です

毎月1日 朔旦祭 (どなたでもご自由に毎月15日 月次祭 (ご参列出来ます。))

毎月・お朔日参りを

致しましょう

杜の話題

春の大祭を奉仕

天皇陛下御即位二十年・両陛下御成婚五十年を奉祝する春の大祭(わかば祭り)が5月3日より5日までの間齋行され、奉祝のパネル展も催されて境内は多くの参拝の方々に賑わいました。

3日午後には春の大祭第二日ノ儀(稚児健康祈願祭)が齋行され、次いで第31回稚児行列も天候にも恵まれ、41人のお稚児さんを中心、子供太鼓山車、鼓笛隊等総勢350人が、1.2キロのコースを巡行しました。



翌4日は春の大祭第二日ノ儀の齋行のあと、第9回「若葉inおみや」が神楽殿で催され、外人奏者が箏、尺八を奉奏。ついで第9回拳式者の集いが清涼殿でありました。また午後には当宮みどりの会主催の植樹祭(献木式)が行われ、参列者に苗木が授与されました。



両陛下御結婚満五十年奉祝祭を

天皇皇后両陛下が昭和34年4月10日に御婚儀を執り行われてより今年で五十年を迎えられましたが、当宮では天皇皇后両陛下御結婚満五十年奉祝祭を月次祭に併せ4月15日午前10時より宮司以下祭員奉仕により中



大祭当日の5日には午前10時より春の大祭当日祭(尚武祭)が齋行され、五穀豊穣に併せ、皇室のご安泰、国の隆昌、世界の平和が祈念されました。このほか杉並太鼓、雅太鼓、方南エイサー、古武道演武の奉納や大宮八幡植木市も催されました。

昭和祭齋行

春の大祭に先立ち昭和の日の4月29日午前、宮司以下祭員奉仕により昭和祭を中祭にて齋行、昭和天皇のご聖徳をお偲び申し上げました。



祭式にて齋行。両陛下の御長寿と皇室の弥栄を祈念致しました。なお当宮奉祝祭の様子は宗教の業界紙である中外日報でも報道されました。

御即位二十年奉祝パネル展開催

春の大祭に合わせ天皇陛下御即位二十年奉祝記念パネル展が4月29日より5月6日の間、当宮清涼殿ロビーで展示されました。パネル展では、即位礼正殿の儀や踐祚大嘗祭の悠紀殿供饌の儀、神宮御親謁など二連の即位儀礼、阪神淡路大震災や三宅島噴火の被災地お見舞、そして沖



佼成会宗教協力委が参拝

春の大祭中の5月4日、立正佼成会杉並教会の宗教協力委員会の方々が当宮を参拝されました。



総勢18名の皆さんは、先ず午前10時の春の大祭第二日ノ儀に参列。昼を挟んで2時よりの植樹祭にもご参列頂き、また「若葉inおみや」や杉並太鼓など春の大祭の神賑行事なども終日陪観されておりました。

第6回大宮八幡宮の杜薪能

NPO法人・杉並で能楽を楽しむ会(田木千城夫会長)主催の第6回大宮八幡宮の杜薪能が去る5月16日夕開催され、天候にも恵まれて七百余人の方々が陪観されました。

この薪能は同会に杉並区教育委員会と杉並区文化協会が後援して平成15年より毎年催されているもの。午後6時、まづ火鑽神事を齋行。火鑽白・火鑽杵によりおこされた浄火が、当宮高橋役員・田木会長らによつて篝火に火入れがされて薪能を開始。



第一部は、雪の葛城山に容貌を恥じつつ舞う女神。古雅な大和舞の幻想を美しくつむぎ出す舞囃子「葛城」。そして横暴な大名に怒り心頭。若狭の昆布売りの仕返しは。そのやり取りが爆笑を誘う狂言「昆布売」の二番を奉納。

第二部は観世流能楽師野村四郎氏により能「殺生石」が演じられました。妖狐の執心が石と化し、近づくと者の命を奪う殺生石。旅の高僧の法力により石は砕かれ、妖狐は消散する。下野国那須野の殺生石の妖異譚に新緑の境内は幽玄の世界が現出され、陪観者を魅了しました。また区教委の後援から区内の小学生やその父兄200名も陪観されました。またこの新能の模様は、神社新報でも報道されました。

第7回大宮八幡宮の杜新能は、平成22年5月15日(土)開催予定です。



りんどう会が永代神社例祭参列

当宮敬神婦人会(りんどう会)では同会活動の一環として去る6月5日午後、東村山市の国立療養所多磨全生園鎮座の永代神社例祭に鎌田会長、堀友副会長、提督事務局長が参列しました。

夏越の大祓斎行

恒例の夏越の大祓神事が水無月の晦日夕、神門前参道広場にて斎行されました。まづ大祓詞が宣読され、参列員が形代で体をなぞり息を吹きかけ祓い清めたあと、天と地や参列員が大麻で祓われました。八針神事のあと、祓つ物を納めた唐櫃を先頭に宮司以下参員及び参列者約二五〇名が列をなして茅の輪を左右左と三度潜る茅の輪神事をして、社殿へ進みました。

社殿では大祓並大祓詞等浄書奉納奉告祭が斎行されました。6月20日より28日の

9日間開かれた大宮八幡塾主催の水無月書写会で、りんどう会会員はじめ氏子崇敬者28名の浄書の大祓詞が大前に奉納されました。



皇居勤勞奉仕に当宮職員が参加

東京都神道青年会では同会創立六十周年記念事業の一環として6月16日より19日までの4日間、皇居勤勞奉仕を実施、当宮からも提督・川上両権禰宜が参加しました。勤勞奉仕は16・18・19日に皇居内、17日には赤坂御用地内の清掃などを奉仕。また宮中神嘉殿前の庭上の除草奉仕や諸施設の参観も許されました。

特に16日には天皇皇后両陛下、17日には皇太子殿下がお出ましになり、親しくご会釈を賜わり、一同無上の感激を致しました。



両陛下御渡航安泰祈願祭を

天皇皇后両陛下には去る7月3日より17日までの間、カナダ、アメリカの両国をご訪問されましたが、当宮ではご出発に先立つ7月1日、「天皇皇后両陛下下加奈陀並米利加御渡航行幸啓安泰祈願祭」を朔旦祭に併せて宮司以下参員奉仕により中祭式にて斎行、又、期間中日供祭に併せてご渡航のご無事を祈念致しました。

また御帰国後の19日には還幸啓奉告祭を同じく中祭にて執り行いました。



平安の七夕 乞巧奠飾り

平安の七夕 乞巧奠飾り



平安の七夕飾りを現代に再現する「乞巧奠飾り」が、本年も7月1日より15日まで清涼殿ロビーに展示されました。乞巧奠は我が国の欄機つ女の信仰や中

国の織女・牽牛の星祭りが重なり、宮中を中心に技芸の上達を祈る七夕行事として行われていたもので、短冊のルーツと云われる梶の葉や五色の紙垂を四方にめぐらせ、詩歌・管弦・裁縫などの上達を祈り筆硯・雅楽器・五色の糸などがお供えされました。併せて、神門前には梶の



葉や五色の布を垂らし平成の七夕、大宮八幡「乞巧潜り」が設えられ、これを潜ることにより技芸の上達が祈られました。

特に七夕7日の午後6時には「七夕の神遊び（七夕祭）」技芸上達祈願祭（乞）を斎行。引き続き大宮八幡乞巧潜り神事が参列の近隣の小中学生や参拝の方々と俱に行われました。また、5日及び12日の日



曜午後5時よりは「雅楽の夕べ」が開催され、雅楽や神楽舞の雅を多くの方々にご陪観頂くと共に技芸上達を願いました。

佼成会オクラホマ教会部長参拝

米国の立正佼成会オクラホマ教会の総務部長キム・ミラー女史が来る7月15日午後、当宮を参拝されました。キム・ミラー氏は佼成会教団本部の氏神でもある事から、今回の訪日を機会に当宮に参詣されたもの。神社の印象などについて宮司と懇談、本殿でお参りの後、梅雨明けの境内を散策されました。



第9回納涼大宮天神まつり

大宮八幡の夏の風物詩「納涼大宮天神まつり」が天神様（菅原道真公）のご縁日の7月25日に斎行されました。



夕刻、近隣の小中学校・氏子崇敬者の皆様よりご奉納を頂いた257点の「書画の行燈」に灯りが入れられ、幻想的な雰囲気の中、大宮天満宮の神前で学業成就・技芸上達を祈る「大宮天神祭」が午後5時30分より約50名のご参拝者と共に斎行。

次いで午後6時30分より社殿前にて「杜のひびきinおみや（時間はずした日の祭り）」として響道宴氏（太鼓）・山本大氏（津軽三味線）・小濱明人氏（尺八）ら『和三BOM』と伊藤 虹氏ら舞踏とのコラボレーションが奉納演奏される中、午後7時には神門前広場にて「子供のミニ花火の集い」も同時開催されました。



当日は五百余名を超える参詣の皆様にご陪観を頂き、夏の夜のひとときを納涼を兼ねお楽しみ戴きました。



大祓形代流旅行信州安曇野へ

恒例の大祓形代流し旅行が7月26・27日の両日行われ、今年も信州安曇野の旅として、戸隠・穂高の両社を参拝しました。



二行29名は早朝旅行安全を祈願の後、関越道より長野自動車道を通って、先ず本年7年に一度の式年大祭が行われた戸隠神社の中社を参拝。そば打ち体験の後昼食、同宝光社を参拝し、美ヶ原温泉に宿泊。翌日、松本市内の薄川で形代流し神事を行った後、日本アルプスの総鎮守であり、本年が20年に一度の大遷宮祭の年である穂高神社を参拝。大王わさび農場等も見学して夕刻無事帰着しました。

戦没者慰霊祭斎行

終戦64年目の8月15日、第26回大宮八幡宮戦没者慰霊祭が斎行され

ました。慰霊祭は当宮慰霊祭実行委員会の主催によるもので、当宮及び兼務神社氏子地域より出征された英霊をお慰めし、追悼と感謝の誠が捧げられました。

献燈提灯奉納のご案内

大宮八幡祭り（秋の大祭）の間中多くの氏子・崇敬者の皆様方をお迎えするに当り、皆様方のお名前を入れた献燈提灯を掲出させて頂き、ご社頭を尚一層賑々しくお飾りさせて頂き度く存じます。つきましては、左記によりご献燈を賜りたく宜しくお願ひ申し上げます。

掲出期間 9月9日から23日まで
初穂料 一燈 一〇、〇〇〇円
申込締切 9月4日（郵送は2日必着）
※詳しくは社務所にお問い合わせ下さい。



清涼殿集宴会場

リニューアルオープン

昭和41年に当宮の総合結婚式場として開業以来、43年もの間、多くの皆様に結婚式披露宴会や集宴会場としてご利用頂いております。「清涼殿」二階「羽衣の間」「蓬莱の間」の全室が老朽化して参りましたので、天皇陛下御即位二十年奉祝記念事業として改修を実施、環境面を重視したデザインにより効率的で更に使い易い施設としてリニューアル致します。



新たに改修なった羽衣・蓬莱の間 (イメージ図)

一つに、部屋の防音効果を一段と高いものに換え、羽衣・蓬莱の2部屋同時使用が出来る様になります。これにより、お客様の都合に一層柔軟に対応させて頂きます。二つ目に、照明・映像関係も従来に加え、最新

の設備を新規に導入。披露宴・研究会等諸会合などにもご利用戴けるよう大画面プロジェクターを設置、併せて音響設備も拡充し、カラオケなどもより良い環境のもと、お楽しみ戴けます。空調も再調整、消防関係も時流に合わせ再検討致します。これからお客様のニーズにお応えし、安心してご利用戴けますよう、従業員一同誠心誠意お迎え致します。皆様のご来館を心よりお待ちしております。

改修工事安全祈願祭を斎行

7月13日に清涼殿のリニューアルにあたり宮司を始め関係者一同参列のもと清涼殿二階改修工事安全祈願祭が斎行されました。

先ず、本殿に於いて修祓の後、神前に齋主が改修工事安全祈願の祝詞を奏上し、宮司並びに各代表(設計：楠本デザインと施工：藤枝工務店)が玉串を奉りて拜礼。



次いで、清涼殿二階へ進み大麻と切り麻にて改修工事現場を祓い清め、工事の無事故安全を祈願致しました。8月末日竣工予定。

緑豊かな都心の杜。
感動の瞬間

初詣 衣装・美容着付・写真・初宮饗膳(ご会食)など承ります。

清涼殿 03(3312)7515



結婚式挙式者芳名 (敬称略)

平成21年4月1日～平成21年7月31日

- 國時誠・里織 赤井康紀・亜弓
- 吉田 顕・怜子 竹内大樹・由希子
- 野崎 竜也・直子 平井利幸・未香
- 山崎 太朗・千佳 本間秀行・恭子
- 阿部 寛人・加奈子 福岡耕太郎・ちほる
- 藤原 幹雄・なつ 山下大輔・水香
- 小山 誠・庫裏 伊藤隆行・今日子
- 朝来野恒・佐織



遷宮で結ぶ人の輪心の輪
第六十二回神宮式年遷宮

式年遷宮奉賛者芳名簿(その3)

平成21年4月1日～平成21年7月31日

(※一万元以上のみ掲出 順不同)

社務所 金壹萬円也
川上規予

浅沼千代子 鎌田有紀
松木和世

ご奉賛頂きました奉賛金は、奉賛会を通じ伊勢神宮へお取り次ぎさせて頂いております。

第六十二回神宮式年遷宮に

真心からのご奉賛を致しますよう

大宮八幡宮が育成母体

BS・GSスカウト募集

ボーイスカウト 杉並13団
ガールスカウト 東京62団

小学一年生から
各学年ご入団
いただけます。

スカウト 募集中

お問い合わせは、当宮社務所へ

大宮八幡の杜 秋も深まり

別当墓地の秋季慰霊祭

当宮に奉仕された歴代の別当や神主をお祀りする大宮一丁目の歴代別当宮司神職奥都城（別当墓地）で秋分の日（9月23日、秋季慰霊祭）が斎行されます。



明治維新以前、神社には別当寺が置かれ、当宮では当初は宝仙寺、その後大宮寺が別当寺となっておりました。維新による別当職の廃止までの43代の歴代別当が別当墓地に祀られています。

近年墓域が荒れて来たことから、平成11年に歴代別当奥都城と戦国から明治までの神主中野氏の奥都城を建立。去る平成15年には当宮御鎮座九四〇年記念事業として歴代宮司神職の奥都城が建立され、毎年春秋の彼岸には慰霊祭が行われています。

第31回杉並大宮菊花展

杉並区内外在住の菊愛好家の方々によって、丹精込めて作られた

数々の作品が出品される杉並大宮菊花展が10月23日から11月23日までの間開催されます。

第31回を数えるこの菊花展。近年は、秋の景観の自然美を菊で再現する「小菊盆景」が、講習を重ねた会員により多数出品されております。また、七五三のこの時期に合わせて仕立てられた当宮菊の会々員による「7・5・3」の文字菊の奉納出展は、当展ならではの珍しく素晴らしいもの。七五三のお参りのお子様方の記念撮影の場にもなっております。他にも色とりどりの花々が所狭しと並び、社頭を華やかに賑わせております。

新嘗祭



勤労感謝の日の11月23日午前10時より新嘗祭が斎行されます。

この祭典は、新穀を神前に供え秋の収穫を感謝する祭典で五穀豊穣を祈る春の祈年祭（春の大



祭）と一対のお祭り、年に3度行われる大祭式の一つです。宮中を始め、全国津々浦々の神社でも行われております。

当宮でも例年、大宮幼稚園の稲田で園児達が一株一株植え、丹精込めて育て収穫された稲穂をはじめ、氏子・崇敬者や事業の繁栄を願う崇敬企業より新穀や御酒・野菜果物等が数多くご神前に献納されます。

第19回杉並花笠祭り



19回目を迎える初冬の風物詩「杉並花笠祭り」が12月12日（土）に当宮とサミット株式会社の主催、山形県他の後援で開催されます。

当日は、杉並花笠祭開催奉告祭を斎行の後、御神酒の鏡開きや東京山形県人会花笠踊り愛好会や地元商店街婦人部らによる花笠踊りのパレードが奉納されます。表参道では山形の郷土料理の芋煮や地酒が無料で振る舞われ、山形特産の農産物・特産品などの露店がところ狭しと立ち並び、3万人を越える参拝者で賑わいます。



神符奉戴式を厳修

平成22年の新春を迎えるにあたり、氏子・崇敬者や全国の立正佼成会会員の皆様にご神札をお頒ちする神宮大麻頒布式並びに氏神社神符等奉戴式が11月初旬に斎行されます。この奉戴式では、御神前に於いて大宮大麻・三宝荒神などの御神札に御神霊をお遷しし、また神宮大麻と併せて頒布始めの旨を大神様にご奉告致しております。

新年には、各ご家庭や会社の事務所の神棚に、神宮大麻や氏神様の新しいご神札をお祀りして清々しい一年に致しましょう。

秋の大祭後の主な祭典行事

10月23日	第31回杉並大宮菊花展
11月23日	月次祭並七五三祝祭
11月15日	新嘗祭
11月23日	第19回杉並花笠祭り
12月12日	天長祭
12月23日	大祓（年越大祓）
12月31日	除夜祭
平成22年	
1月1日	神能「翁」・厄除開運大折禱
1月2日	歳旦祭
1月3日	小笠原流墓目の儀・大的式
1月15日	元始祭
1月15日	古札焼納祭（どんと焼）

初宮詣芳名

(平成21年3月24日〜平成21年7月20日)

お子様のお健やかな成長をお祈り致します

佐甲瑛 佐藤佑 西井陸人 大平珠央
 太田かの 神谷穂乃佳 白川颯大 矢成遥斗
 片岡咲音 澁谷陽佑 木村薫海 深澤智大
 大野瑛希 西村慶太 橋本和樹 間宮陸
 葛西湊太 立石昂生 加藤さくら 羽田竜馬
 後藤駿希 上田臨太郎 川島悠輝 松木良太
 小林拓斗 新野朱音 中村太紀 三塚千陽菜
 佐藤武尊 矢野恵祐 坂巻芽母 森下みのり
 遠藤瑛士 石屋重紗 杉田璃音 炭本星空
 山崎桜花 鶴澤怜久 北原圭太郎 館應介
 戸田大道 肥塚悠介 北原周太郎 柴田裕衣
 松本晃太 神宮社一郎 山本琉音 原田和明
 吉野暖彩 峯岸輝 余田幸登 比嘉瑛理奈
 萩原梨奈 松之内咲希 松林将吾 富永真央
 大寺康介 伊澤つむぎ 山中沙穂 大石隆平
 仁科明理 高橋駿心 田口弘大 小田朝登
 國武ゆき 道谷一成 松村柁奈 湯浅宗理
 須田光一 太田万葉 中埜泉美 関根忠快
 松本奨吾 半澤雄章 岩田実優 荻野百合子
 石坂美緒 川原崇平 井上こはる 木曾陽仁
 浜田緑 大越菜翔 千葉徳温 野地優世
 川崎志織 大田大雅 矢代朔太郎 初芝利應
 片岡悠紀 小林真朗 藤田真緒 野村真央
 石毛里奈 高橋満里桂 佐藤里枝 佐藤社一郎
 西井隆晴 池上優菜 松本響輝 樋口友香
 東原俊星 五十嵐友悟 前田峻雅 長谷部成
 橋本珠 中村響 新舟駿 本橋啓大
 林健太郎 鈴木夕璃 内田水威 小菅蓮
 澤田優芽 戸塚えま 宮城琉星 出井茜
 秋山馨太 當谷優依 江本紬 近藤愛瑠
 遠藤綺人 日高翔 平田光希 村頭彩花
 小山蒼一 ダーキー海翔 上田利志 山田美華
 林祐正 藤川理湖 ショウゴ 乙川千倫
 香川悠里 渡邊紗糸莉 池内志織 相原佑貴哲
 田中綾音 松浦純一 小澤結愛 今井裕美
 中島煌太 平田大己 毛利龍八 黒木優
 塩田紗良 荻野実花 尾川智基 ガーナ温陸
 羽生松太朗 熊谷大之 齋藤百華 佐久間稔

生久保宏弥 秋澤志泰 小林剛士 荒井咲那
 生久保有咲 風間蒼 久田花衣 石川詩桜
 小山結理 有川仁悠 三浦茉莉花 前島玲枝
 富松花音 梶田智基 唐野雄太 吉田桜子
 藤代雄太郎 本瀬愛奈 青木哲平 吉田楓太
 関根梨央 中井那音 具塚夕有樹 石川瑛大
 宇野円花 笹原陸 小野正太郎 山川瑞希
 小幡紗奈 金子まさら 嶋木修吾 小倉優輝
 高倉実桜 富沢夢 上杉優佳 野口桃
 戸井田大輝 黒柳あかり 橋本悠太 出口舞桜
 鹿倉麻帆 神山史佳 浮田芽依香 大谷和可奈
 仲晚生 高橋寛介 長田一樹 堤田崇洋
 中村太一 下山紗優理 吉野佑馬 日下陽晴
 川村悠人 柿澤集 我妻陸登 井上樹依 冠城俊示
 森遼太 宝妻ゆり子 シムラ心智 松浦大輝
 奥石蓮 古原悠真 吉田桜彩 栗橋謙司
 若山明未理 大川成都 堀中朝陽 池田琉人
 山口悠輝 新居佑斗 澤田詩瑠 萩庭楓
 鈴木木音 山口弘弘 佐藤愛桜 萩庭志帆
 鈴木智智 米田未湖 大野奏音 三上り菜子
 和田玄都 高橋璃子 井上紗希 安島優香
 清水純斗 柿爪宏太 岡田莉希 羽田伊吹
 大圖唯 近藤真志 植田結菜 日向梓菜
 横尾綾音 土井桜 植村静太 草野駿生
 今野兒奈 大場紗和 鈴木健太郎 松井和華
 坪田紳吾 田中優翔 生形遙都 松井和華
 清水翔太 白石恵菜 大竹暖真 佐々木陽郎
 大矢美玖 番場翔平 徳澤結実 佐藤来紀
 今野駿 志村由奈 清水亜依香 小林優太
 谷口玲奈 福間響 宮原友理 藤吉元香
 鈴木花音 田辺和香 中村初菜 藤田大駆
 金子悠人 渡辺喜一 中村海翔 阿部圭桐
 丸山姫果 芳野心都 阿部桜輝 田代花音
 大原楓夕 松田優香 田中利瑚 松本優空
 吉田桜 古屋すみれ 野本脩平 蔣昊論
 金井謙太 関信胡 山口大空 藤田浩二郎
 村井健剛 高谷航生 石井健太郎 根岸大吉
 二村遙香 渡邊三玲 安富幹高 長野こはる
 網野帆夏 楠原百恵 太田愛未莉 秋丸楓
 藤間優馬 玉置そら 本橋賢乙 鈴木杏
 櫻井優歩 菊地万莉香 川湖紡 大西春嘉



漢字仮名交じり教育

7月から漢字遊び(漢字かな交じり)を教育に取り入れました。DVDや絵本・カード等を使って行うのですが、必ず行うことは最初と最後の挨拶と瞑想です。実は子供達も保育者もこの瞑想がお気に入り。DVDからクラシック音楽が流れてくると、子供達は椅子に浅く腰掛け目を閉じます。保育者は、「良い姿勢をつくり、心静かにしましょう」と一人一人の背筋を伸ばす様に体に触れ、声をかけていきます。子供達は保育者に触れてもらう安心感とこの動作が大人っぽく感じられる様で、少しお兄さんお姉さんになった気持ちになり嬉しい様です。

保育者も30人以上いる子供達一人一人と自然にスキンシップがとれ、慈しむ感情が湧いてきます。家でテレビを見ていたとき、綺麗な音楽が流れてきたので、「あつ、瞑想だ!!」と目を閉じてしまったお友達もいるほどです。教えるのではなく、見て聞いて繰り返し子供達の吸収力に驚き、これからが楽しみです

教諭 水村幸百合

チャリティーバザー開催



7月4日、晴れ渡る青空の下、父母の会主催の大宮幼稚園チャリティーバザーが、盛大に開催されました。園庭・ホールには、父母の皆様を始め、関係各所よりご協賛のお菓子やジュースに手作りおもちゃ等、子供用品から家庭用品まで、園児はもとよりお父さんお母さんもお買い物を楽しんでおられました。この日の為多くの方々にご助力を頂き、ようやく当日を迎えることが出来ましたが、子供達の笑顔を見ているとそんな苦労も吹き飛んでしまいました。(父母の会会長 井口良子)

大宮幼稚園開園60周年

当宮が設立母体となり、昭和25年3月に設立してより多くの卒園児を送り出して参りました大宮幼稚園。来年平成22年に創立60周年を迎えるにあたり、この佳年に記念事業として、
 ・園舎玄関ホール改修並周辺整備事業
 ・園舎園庭側外壁に環境壁画作成
 ・園庭遊具安全点検の実施及改修
 ・創立60周年記念式典及記念誌発行
 などが検討されております。

- | | | | | | | | |
|-------|--------|-------|--------|--------|-------|-------|-------|
| 平田玲奈 | 仁井山優太 | 吉田悠香 | 佐藤愛利 | 山野茜 | 林希佳 | 山下櫻裕 | 高本遼太郎 |
| 佐野光 | 野山航平 | 小林晴虎 | 黒澤集 | 湯川剛剛 | 井上航希 | 杉下樹 | 田中響華 |
| 江口実桜 | 堤慎乃介 | 鶴田凌駕 | 其田侑也 | 竹内茉莉 | 渡邊航太郎 | 吉利レリア | 伊藤里菜 |
| 濱ひらり | 杉原周 | 赤岡奏乃 | 石田侑里 | 笠原美織 | 志芽志葉 | 山内佑夏 | 宮田翔子 |
| 岩倉友紀 | 今井すみれ | 佐藤慎斗 | 倉本光 | 桜井健 | 堀内啓史朗 | 山内杏夏 | 嶺野喜子 |
| 武藤弥優 | 諸岡琉花 | 羽場天人 | 及川瑛大 | 中村里桜 | 松川陽登 | 鎌田那悠 | 内藤真咲 |
| 柳河洋翔 | 田中崇一朗 | 浦田晴登 | 住吉洋祐 | 今村おひさ | 飯島智暉 | 嶋崎太紀 | 遠山嶺 |
| 畑尾史恵 | 横田利紗 | 清水煌生 | 佐藤凜佳 | 関谷和帆 | 濱邊見大 | 朝日奏輝 | 中本大智 |
| 山本咲 | 野村あまね | 井場美杏 | 井場美杏 | 小山大翔 | 木本望天 | 尾崎亮太 | 谷垣亮成 |
| 大西真理愛 | 三橋彩百合 | 渡部理人 | 網屋充 | 宮袋晴希 | 大里まさら | 小杉心乃 | 秋山愛未 |
| 六澤咲奏 | リヒト上陽華 | 長谷川在 | 富山哲太 | 吉村遥 | 小沼蓮 | 渡邊日葵 | 酒井優海 |
| 安岐直太朗 | 芳野紗和 | 川浦未来 | 山崎友輔 | 野里步 | 高橋正輝 | 永藤優奈 | 竹下理紗 |
| 今野叶夢 | 藤田理紗 | 坂本李仁 | 片岡美穂子 | 伊藤美月 | 山形亮太 | 市川結菜 | 西崎有紀 |
| 井上景一朗 | 青田柚子 | 新庄侑月 | 長谷場こころ | サンズアイン | 鈴木心喜 | 岡花名 | 酒井美緒 |
| 長谷川尊 | 柏原茉依 | 瀬沼夏太郎 | 浦上壮 | 永井天良 | 岩瀬萌生 | 山口弥恵 | 早田圭佑 |
| 荒木遙斗 | 毛塚美桜喜 | 鳥居花菜 | 小林未来 | 木曾太朗 | 前田莖花 | 高橋理来 | 福岡蓮斗 |
| 長崎雄祐 | 岩永和久 | 那須燦 | 蔵屋晶哉 | 根本百音 | 岡本健志朗 | 渡部かな子 | 豊島瑞樹 |
| 新島光太郎 | 秋武公洋也 | 富田晴夢 | 石原心美 | 杉浦隆志 | 西川輝太 | 若井大成 | どろろ |
| 沼田花 | 天野智也 | 東浦佑美 | 後藤生真留 | 泊口優海 | 竹中太芽 | 田代芽衣 | 入倉花寧 |
| 千葉萌衣 | 天野晴仁 | 大熊壮佑 | 石田蓮入 | 山崎優 | 大石さくら | 滝沢達郎 | 中尾巴香 |
| サングル衣 | 塚原康介 | 古市琴音 | 川上敬大 | 青木泰助 | 中澤優樹 | 坂口晴香 | 内藤弘貴 |
| 川本拓歩 | 永吉結芽 | 深田理咲 | 半田飛雅 | 恒川卓哉 | 丸田咲良 | 鈴木隼 | 宮原和寛 |
| 青木唯花 | 矢部結菜 | 矢鋪菜菜 | 鈴木一樹 | 高見まい | 小島瑛 | 片岡莉奈 | 荻野誠 |
| 志田春希 | 兼菜菜々子 | 田中愛蘭 | 生田目裕也 | 星尾仁菜 | 小倉楓乃音 | 中村眺人 | 前田貫太 |
| 黒柳幸大 | 樋口晶 | 末吉皇輝 | 藤井孝樹 | 大熊凌平 | 田嶋里奈 | 鶴橋快人 | 杉江真緒 |
| 木田侑我 | 嶋野春仁 | 飯坂優生 | 都築尚登 | 岸琉心 | 加藤諒輔 | 小此木菜凜 | 白杵真奈美 |
| 名田美桜 | 嶋野春仁 | 飯坂優生 | 佐野倅春 | 梶山口菜子 | 中鉢諒 | 小此木菜莉 | 石川瑠唯 |
| 風戸悠良 | 中野莉生 | 押田風志 | 木村圭 | 濱登拓哉 | 中嶋翼空 | 牧野夏希 | 中井朱里 |
| 遠藤孝太郎 | 左右浩大 | 佐藤樹 | 小倉優樹 | 駒村大翔 | 浅野舞 | 橋村美伶 | 島本優樹 |
| 松本蒼生 | 塩屋凱大 | 坂口功 | 小倉優樹 | 横野雫 | 斉藤かほ | 高山瑠偉 | 小西晃稔 |
| 谷口颯真 | 押久保絵真 | 山下太輔 | 久保田真理 | 池田葵 | 関野聖聖 | 間宮寛佳 | 矢部琥大朗 |
| 首藤こなた | 福田照子 | 田村啓介 | 仲西璃子 | 小川真緒 | 松本小琴 | 武田ゆい | 今井義海 |
| 松本優和 | 渡邊由衣 | 相野田あみ | 椎野彩芽 | 今井望空 | 宮原ひなた | 小原志仁 | 見満有海 |
| 古館里紗 | 山中楓花 | 細田彩美 | 鶴岡利子 | 小松崎結衣 | 荒原ひなた | 平岩蒼大 | 杉山結芽 |
| 小林千紘 | 山本萌々花 | 芳賀周真 | 池部礼風 | 松永修志 | 荒井悠喜 | 鈴木凜久 | 本多葵 |
| 星野世成 | 馬橋龍世 | 福田優太 | 高橋瑛人 | 金森玲央 | 佐野英郎 | 池田安那 | 小森又瑠 |
| 外山颯 | 早川友 | 高橋柚希 | 新井彩恵 | 平田静菜 | 目藤由唯 | 杉山明彩奈 | 岡崎湊 |
| 工藤咲希 | 村主華子 | 遠藤寧々 | 栗原稜 | 大鐘晴喜 | 宮城善志 | 渡邊圭 | 杉澤慶斗 |
| 小石澤美希 | 近江悠希 | 西巻葉都 | 天野友梨奈 | 小林磨生 | 佐藤百恵 | 西村桜有子 | 西田紅音 |
| 小木暢己 | 吉村莉奈 | 榎田啓二郎 | 鈴木菜桜 | 西村明利 | 加藤優亮 | 門田咲希 | 中野悠和 |
| 竹田唯人 | 鶴田雄平 | 鈴木枝桜 | 高橋菜央 | 常田ゆず季 | 岩月麻絵 | 中野悠和 | 青木颯汰 |
| 河副真昼 | 橋本和磨 | 播島光 | 野村佳世 | 小室優月 | 山下綾望 | 青木颯汰 | |
| 野口美優 | 前田陽光 | 長島海翔 | 片山颯太 | | | | |

祝七五三詣



七五三詣は男児三歳と五歳、女児三歳と七歳の祝いで三歳は髪置き、五歳は袴着、七歳は帯解きとも呼ばれてきました。髪置きはもう赤ちゃんではないという意味から剃っていた髪を伸ばし始めます。袴着は男児が初めて袴を着ける儀式、帯解き(細解き)は女児が付け紐で着物を結んでいたのを帯に換える儀式です。(お子様が生まれてから七歳になるまでに様々なおまつりが行われるのは、昔から「七歳までは神の子」と考えられていたからです。)

また、古来より11月15日には親子そろって氏神様に参拝して、お子様の成長を感謝しこれからの健康を祈願致します。

七五三レンタルプランご予約会

ご予約会日：7月4日(土)より毎日朝10時～夕方5時まで開催

七五三年齢表

七歳	女児	平成 15 年生
五歳	男児	平成 17 年生
三歳	男・女児	平成 19 年生

※生まれ年と年齢は数え年によるものです。満年齢でお受け頂いても差し支えございません。

七五三詣・立志詣のご案内

七五三を過ぎて子どもから大人へと進むとき、十三詣を致します。十三歳は特に女子の場合、女児が女性になる年頃、即ち二人前の成女として社会に加わる大事な歳でもあります。この歳に氏神様にお参りして大人へなることへの自覚と決意を新たにするのが十三詣です。

また立志詣とは、論語に「吾十有五にして學に志す」との言葉が

有ります。元服のものもこの意味は冠であり、公家や武家ではこの十五歳の頃、加冠即ち冠や烏帽子を頭に頂く事で成人の仲間入りをしました。現在ではこの伝統を受け継ぎ、「志を立て目標を成し遂げる」ことを大神様にお誓いしご加護を頂く立志詣が行われています。

侍烏帽子



奉祝 天皇陛下御即位20年 大宮八幡祭り(秋の大祭) 9月15日~21日

大宮八幡祭り(秋の大祭) 例祭〔15日 午前10時〕



献幣使、ご神前に祭詞を奏上



氏子・崇敬者等来賓多数参列



皇室国家の安泰を祈念し、聖寿万歳

大宮八幡祭り(秋の大祭) 氏子奉幣祭〔20日 午前10時〕



氏子幣、唐櫃にて捧持し参進



副奉幣使、赤誠籠もる氏子幣を奉献



佼成雅楽会による舞楽の奉納

奉納 神賑行事

氏子町会神幸所

- 大宮地区
 - (宮元会神幸所)
 - 大宮一丁目町会神幸所
- 方南地区
 - 峰睦会神幸所
 - (峯栄会神幸所)
 - 新栄若睦会神幸所
 - 泉南睦神幸所
 - 方南西神幸所
 - 方南東神幸所 (上)
 - 方南東神幸所 (下)
- 和田地区
 - 和田睦会神幸所
 - 和田敬神会神幸所
 - 和田仲組神幸所
 - 和田南神幸所
 - 和田東神幸所
- 松ノ木地区
 - 松ノ木睦会神幸所



神輿御霊入れ〔18日〕



菊被綿飾り〔9~23日〕



宵宮祭参進〔19日〕



杉並太鼓〔19日〕



園児民謡踊り〔19日〕



裏千家野点茶会〔20日〕

大宮 第85号
平成21年 秋の大祭号
平成21年9月1日発行
大宮八幡宮社務所

〒168-8570
東京都杉並区大宮2-3-1
電話 (331)0105 FAX(3318)6100
Mail : info@ohmiya-hachimangu.or.jp

境内では、連日神賑行事が奉納されています